

# 自然栽培法による農業関係者の 利益向上可能性を高めるための施策

加藤 恵吉<sup>1</sup>  
黄 孝春<sup>1</sup>  
内藤 周子<sup>1</sup>  
V.カーペンター<sup>2</sup>

## はじめに

本年度のプロジェクトは、各地域において継続的に自然栽培法による農作物の生産・流通・販売等を実践し事業利益を維持している農業生産者等の調査を対象として始まった。

当研究グループはこれまで継続して、青森県に留まらず北海道から愛媛県までの自然栽培農業生産者の状況を調査してきた。そして、その知見や人脈を基に、シンポジウムやフォーラムを開催することで、全国の自然栽培法農業者等に成果還元を行った。当研究グループのシンポジウム等は、自然栽培の分野では日本有数の規模を誇り、学術面からのアプローチは他に類をみない。そのため、全国の自然栽培関係者や経営者からの評価も高いものを得られてきた。本年度は、これまでの研究成果をさらに発展させる形で、自然栽培法による農業生産者の調査研究を行った。

## 1. 背景と目的

当研究グループの目的は、自然栽培法を中心とする農業生産法人の生産・流通・販売に注目し、その個々の企業・団体の経営マネジメントが、全国の自然栽培農業者及び社会に経営面からどのように貢献するか、メンバー各自の学術的観点により明らかにすることである。2015年に国連が示した目標では、少ない資源で持続可能な生産、消費ができる形態が示唆されており、これと親和性が認められる自然栽培農法を、経営マネジメントの側面から捉え、関係者および地域経済への貢献可能性を検討してきた。これまでの知見及び人脈を基に今年度は、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターフォーラムとして開催する予定で、その知見を広く自然栽培関係者と共有する。また、自然栽培関係者の経営及び地域におけるニーズに応え、ヒアリング調査・生産経営現場の訪問・調査により実際の経営事例における創意工夫を学術的な観点と組み合わせた分析を行う。

当研究グループが企画、開催してきたフォーラムは、前述したように日本の自然栽培の分野では日本有数の参加者を誇り、経済学や経営学に類する学術面からのアプローチは他に類をみない。また、継続と研究の蓄積によって、関係者の交流の場を定期的に提供することができ、それらの交流がプラットフォームとなり将来的に新たなビジネスへ発展することが期待される。本年度は、自然栽培関係者からの要請や学術上の観点からも自然栽培に関するプラットフォーム作りの一環として自然栽培のホームページを開設する。このホームページ作成に関しては、当研究メンバーの大学での実習科目などに取り入れ、学生及び地

<sup>1</sup> 弘前大学人文社会科学部

<sup>2</sup> 弘前大学人文社会科学部（客員研究員）

域社会にも還元していく新たな取り組みも行っている。



(写真)「自然栽培ホームページ(自然栽培センター)のスクリーンショット」

## 2. 実施内容(今年度の活動の概要)

本プロジェクトによる今年度の研究成果については、後述するように2022年2月に予定するZoomによるフォーラム開催が残されているが、現時点でのインタビュー等の活動について述べる。

本プロジェクト遂行に当たっては、今年度、新型コロナウイルス感染症に対する影響で調査支障が出たものの、安全対策を取った上で宮城県、福島県、山形県、埼玉県及び山梨県にて自然栽培法による農作物の販売と経営に従事する企業およびグローバルギャップ(GGAP)の認定作業の実施状況を調査すべくその実態も調査した<sup>3</sup>。また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2022年2月5日に会場等で行うシンポジウムではなくZoom(ネット配信)を利用した「弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターフォーラム」を「自然栽培を学問する」というテーマで開催する予定であり、引き続き農業従事者・関係者と成果を共有し、地域のアグリビジネスを下支えしていくとともに今後さらに研究調査の成果を報告書にまとめる。本プロジェクトを通して、自然栽培法を用いて農業を営む農業関係者が潜在需要を如何に喚起し、経営上成功できるか。また、これらの農業関係者の戦略やマネジメントを分析することで如何に供給を喚起するかという問いに応えられるように調査、分析を行い広く貢献していく。

## 3. 研究調査・発表

2021年度においては、当報告書締切後(2022年1月以降)も調査等を行う予定であるが12月までの調査活動を紹介する。また2022年2月5日にオンライン(Zoom)にて開催する予定のシンポジウムの趣旨およびプログラムを紹介する。

### 「研究調査・発表」

- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「なりさわ生命食産(宮城県登米市:自然栽培農家成澤様)」2021年7月3日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「NPO法人木村秋則自然栽培に学ぶ会 ごえんの会(宮城県丸森町:NPO法人大槻様)」2021年7月4日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「山形大学農学部名誉教授(山形県鶴岡市:粕淵様)」2021年8月23日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「荒生勘四郎農場(山形県酒田市:荒生様)」2021年8月23日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「會津身不知吉美人(福島県会津若松市:澁川様)」2021年9月14日

<sup>3</sup> 次項、3. 研究調査・発表参照

- ・黄孝春・加藤恵吉、「GGAP 認証公開審査【新潟県立村上桜ヶ丘高等学校】（新潟県村上市）」2021年9月15日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「明石農園（埼玉県三芳町：明石様）」2021年11月27日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「サンスマイル（埼玉県ふじみ野市：無肥料自然栽培農産物卸 松浦氏様）」2021年11月27日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「小黒農場（山梨県北杜市：無肥料自然栽培農家 小黒様）」2021年12月3日
- ・黄孝春・加藤恵吉、ヒアリング調査「八岳南麓ファーム（山梨県北杜市：無肥料自然栽培農家 八巻様）」2021年12月3日
- ・黄孝春「みどりの食料システム戦略を地域でどう生かすか」弘前大学地域社会研究科令和3年度第1回セミナー（ポストコロナの地域の自治と経済的自律）2021年12月15日
- ・朝日新聞の取材を受けて、2021年10月1日朝日新聞夕刊記事掲載「自然を育む農業5」に「自然栽培センター」
- ・黄孝春・弘前大学人文社会科学部学生カンパニーNCC「自然栽培関係者向けのプラットフォームHP「自然栽培センター」作成（2月5日地域未来創生センターフォーラムで公開予定）

「研究公開フォーラム」

今回のフォーラムでは「自然栽培を学問する」と題し Zoom（ネット配信）にて弘前大学から全国に発信する。講演者は、弘前市出身の自然栽培農法の第一人者木村秋則氏、学術的観点から弘前大学名誉教授杉山修一氏、山形大学名誉教授粕淵辰昭氏他で農業者、自然栽培に関連した研究を行ってきた研究者が講演を行う。

このような取り組みや成果を発表することで、自然栽培に携わる関係者及び、関心のある方々と情報を共有する機会とし、農業関係者、研究者、その他の参加者の知見や関心を深めていく。

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターフォーラム

自然栽培を学問する

日 時：2022年2月5日（土） 14：00～17：20  
 会 場：オンライン開催（Zoom）

総合司会	内藤周子	弘前大学人文社会科学部 准教授	
プログラム			
1. 開会の辞	飯島裕胤	弘前大学人文社会科学部学部長	14：00～14：05
2. 趣旨説明	黄 孝春・加藤恵吉	弘前大学人文社会科学部教授	14：05～14：20
3. 講演（1）	木村秋則	木村興農社	14：20～14：55
	【進む温暖化と自然栽培】		
4. 講演（2）	粕淵辰昭	山形大学 名誉教授	14：55～15：55
	【江戸時代に学ぶ多数回中耕除草の13年一除草ではなく中耕だったー】		

5. 講演（3） 杉山修一 弘前大学 名誉教授 15：55～16：55  
【「奇跡のリンゴ」はなぜ成功したか—17年間の研究で分かったこと—】
6. 自然栽培 HP の開設について 16：55～17：15  
弘前大学人文社会科学部3年 学生カンパニー NCC  
高橋啓一 NPO 法人岡山県木村式自然栽培実行委員会 理事長
7. 閉会の挨拶 李 永俊 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター長 17：15～

#### 4. お わ り に

以上、今年度の当プロジェクトに関しては、2022年1月以降も進行中であり、人文社会科学部地域未来創生センターフォーラムの開催やネットを通じたWEBインタビューなど許される限りの調査を行う予定である。また、コロナウイルス感染症のため活動は制限される可能性があるが、これまでの活動に加え、次年度以降も各地の自然栽培に関する農業生産者のインタビュー調査を基にした研究を続けるとともに学会等での発表及び自然栽培を通じた食と農業の持続可能な発展と地域づくりのために、プロジェクト・メンバーの学識を基に、自然栽培に関わる農業者及び農業法人等の事業者の経営課題についてさらに研究を進展させていく。

# 自然栽培 を 学問する



2022年2月5日(土) 14:00~17:20 総合司会 内藤 周子  
弘前大学人文社会科学部 准教授

ZOOM 開催・参加無料

## PROGRAM

1 開会の辞 14:00 ~ 14:05

飯島裕胤 弘前大学人文社会科学部学部長

2 趣旨説明 14:05 ~ 14:20

黄孝春・加藤恵吉 弘前大学人文社会科学部 教授

3 講演① 14:20 ~ 14:55

木村秋則 木村興農社  
【進む温暖化と自然栽培】

4 講演② 14:55 ~ 15:55

粕淵辰昭 山形大学 名誉教授  
【江戸時代に学ぶ多数回中耕除草の13年  
- 除草ではなく中耕だった -】

5 講演③ 15:55 ~ 16:55

杉山修一 弘前大学 名誉教授  
【「奇跡のリンゴ」はなぜ成功したか  
- 17年間の研究で分かったこと -】

6 自然栽培HPの  
開設について 16:55 ~ 17:15

弘前大学人文社会科学部3年 学生カンパニー NCC  
高橋啓一 NPO法人岡山県木村式自然栽培実行委員会 理事長

7 閉会の辞 17:15 ~ 17:20

李永俊 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター長

URLまたはQRコードより  
お申し込みください。  
お申込み確定後、ZOOM URL等の  
情報をお送りします。



▶▶ <https://forms.gle/5CDncCqgUokmSTqw8>